

大貫妙子さんを迎え、 新しい音楽ビジネスの可能性を探る！

mission1では、現代アート、mission2ではアニメーション、
そしてmission3では、音楽にフォーカスを当て、
札幌における先進的な取り組みを生みだします。

ゲストに、シンガーソングライターの
大貫妙子さんをお迎えし、
現在の音楽シーン、日本の音楽流通がどの
ように変化してきているのか？
また、音楽の持つ役割、
環境と音楽、都市と音楽の関係を
お聞きします。

参加企業：メディア、アニメーション、音楽プロダクション、
IT企業、映像会社、ベンチャーキャピタル etc.



Special guest: **Taeko Onuki** (大貫妙子)

SAPPORO次世代コンテンツ産業創造プロジェクト 第3回プロジェクト会議 主催：インタークロス・クリエイティブ・センター

mission 3

ゲストトーク&シンポジウム

3/29 tue

～ 目覚めよ！ 音楽新天地, Sapporo. ～

日時：3月29日(火曜) 16:00~19:30

場所：プリンスホテル国際館パミール

札幌市中央区南2条西11丁目 TEL:011-241-1111

SAPPOROが音楽の新天地になる！

Project mission: 今回のミッション

北海道は多くの優秀なミュージシャンを輩出し、高いポテンシャルを持っていると言われていますが、音楽出版やディストリビューションという観点ではなかなか確立されていないのが現状です。しかし、インターネットなどによるコンテンツの流通が大きく変わり、近代の考え方も地球規模に変化する中、札幌における音楽コンテンツのビジネスにもチャンスがあるのではないかと探ります。クリエイターと企業が共同して具体的な産業誘致・人材誘致、新会社の設立などを目指すのが今回のミッションです。

【参加方法】

■ 申し込み： <http://tinyurl.com/48glxu5>

■ 参加：無料（先着順） 限定100名

■ 対象：クリエイター・企業・投資家・教育機関・学生

■ 〆切：3月23日(水) 〆切 但し、*定員に成り次第〆切

■ スケジュール：

16:00 ~ 16:15 主催者あいさつ、趣旨説明

16:15 ~ 17:00 トークライブ > ゲスト：大貫妙子

17:15 ~ 18:45 シンポジウム > パネラー：大貫妙子、
高瀬清志、竹内宏彰、司会：久保俊哉

18:45 ~ 19:15 mission1~3 プロジェクト総括報告

問い合わせ： info@icc-jp.com 池田・岡田

インタークロス・クリエイティブ・センター



sapporo ideas city へのメッセージ：<sapporo ideas city公式サイトより>

「これからの私たちが住んでみたい街。日本の知恵と技術が集約された街。そこはハイテクでナチュラルエコロジーこそ、本来日本の暮らし方でした。未来のライフスタイルのあるべき姿、これからの時代のモデルとなる、そんな街があったら是非移り住みたいです。それを実現出来る可能性をいっぱい秘めている場所が北海道です。sapporo ideas cityから発信してください！飽食に疲れた都市の住人は日本の中のそんな場所を求めています。寒いなんて、関係ない。エコロジーの最先端は、北欧世界は、北からです。

離れてみてわかる故郷の素晴らしさがあるように、遠くから見ていることでわかる新鮮な驚きや憧れがあります。私たちが生きていく過程で調子の良いとき悪いときがあるように、日本列島も生きていく身体と同じだと感じています。何処かが過剰に肥大していてもあるいは疲弊していても健康とはいえませんが、それぞれにその果たす役割が必ずあります。もうそろそろ誰もが、地に足のついた暮らしがしたいと思い始めています。そのためには自然を味方にしなくてはならないことにも気づき始めています。雄大な大地と豊かな野生動物たちが生きていける場所こそ、私たちが求めるに相応しい場所だと思います。札幌から始めましょう。今再びフロンティア・スピリットを！私も応援します。

大貫 妙子

●ゲスト：大貫妙子（シンガー&ソング・ライター）

東京生まれ。1973年、山下達郎らとシュガー・ベイブを結成。75年に日本初の都会的ポップスの名盤『ソングス』をリリースするも76年解散。同年『グレイ スカイズ』でソロ・デビュー。以来、現在までに26枚のオリジナル・アルバムをリリース。日本のポップ・ミュージックにおける女性シンガー&ソング・ライターの草分けのひとり。その独自の美意識に基づく繊細な音楽世界、飾らない透明な歌声で、多くの人を魅了している。アルバムとしては、坂本龍一、細野晴臣、高橋幸宏、大村憲司らが参加した初期代表作『ロマンティック』『クリシェ』、現在もセッションに欠かせないピアニスト、フェビアン・レザ・パネ参加の『pure acoustic』、90年には当時新進気鋭のミュージシャンだった小林武史参加による『DRAWING』など、今も色あせない日本のポップスの名作をリリースしている。CM・映画音楽関連も多く、映画『Shall we ダンス?』（監督：周防正行 96年）のメイン・テーマや、98年の映画『東京日和』の音楽プロデュース（監督：竹中直人/第21回日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞）、スタジオジブリ初の海外配給作品『裸のキリク』イメージ・ソングなどを担当した。また、レコーディングや取材などで南極も含む6大陸すべてに足跡を残しているが、その紀行文や、日々の考えをつづったエッセイなどの文章も好評。その日々の暮らしの視点から、環境、エネルギー、食料などの問題についての発言も多く、農作業や、東洋医学に基づく健康管理を実践するという行動派でもある。第2回札幌国際短編映画祭（2007年）の審査員を務めた。

●ゲスト：高瀬清志（(株)SAVE<芸森スタジオ> 代表取締役副社長）：

1974. 日本楽器北海道支社入社 ポピュラーソングコンテスト（ポップコン）の運営を担当し中島みゆき、安全地帯などのアマチュア時代を手がける
1982. 株式会社WESSに入社 FM北海道の開局と同時にFMラジオ番組制作にたずさわり、ミュージックバラエティー（中田美知子）、タフタウンビートなど数多くの番組を手がける。
1993. 第2FM局のFMノースウエーブ開局と同時にWESSを退社し株式会社FMノースウエーブに入社。 編成部を中心とした業務を担当する。
2008. FMノースウエーブを退社し（株）SAVEに入社し芸森スタジオの再編と運営に携わり今に至る。

●ゲスト：伊藤隆介（映像作家・道教大准教授）：

1963年札幌市生まれ。北海道教育大学准教授。インタークロス・クリエイティブ・センター（ICC）アドバイザー。東京造形大学デザイン学科在学中より「村雨ケンジ」名義でマンガ、アニメ評論を多数執筆、コミック雑誌の編集も手掛ける。
シカゴ美術館付属美術大学修士課程修了。映像作家、現代美術作家として活動、特に実験映画「Plate」シリーズ（1999〜）は、国内外の映画祭などで多数上映されている。札幌ではインデペンデント映画の普及も行っている。

●プロジェクト・リーダー：竹内 宏彰（プロデューサー）

(株)シンク取締役エグゼクティブプロデューサー、(株)ブルズ・アイ取締役、京都造形芸術大学・金沢工業大学客員教授。インタークロス・クリエイティブ・センター（ICC）アドバイザー。1960年山梨県生まれ。慶應義塾大学卒業後、(株)集英社週刊ヤングジャンプ編集を務め、1984年に(株)シンクを設立。1998年に伊藤忠商事やADKの出資で(株)コミックス・ウェブ社を設立し、早期黒字化を達成、2005年にMBOを実施するなど事業経験も豊富。ハリウッド作品「マトリックス」のアニメ版「アニマトリックス」を手掛ける一方、新海誠監督「ほしのこえ」など、個人クリエイターを数多く輩出。2009年には東京都との共同による「動画面画東京」プロジェクトにより、宇木敦哉監督「センコロール」PICOGRAPH「テイルエンダーズ」など、札幌発のクリエイターをメジャーデビューさせる。